

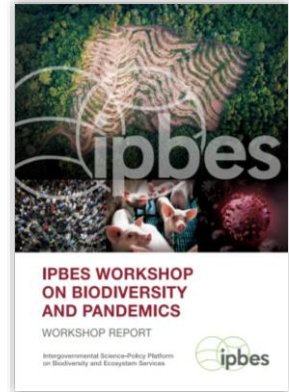
# IPBES 生物多様性とパンデミックに関するワークショップ報告書の概要

- ・ IPBES「生物多様性とパンデミックに関するワークショップ」の成果(2020年10月公表)※
- ・ 新型コロナウイルス感染症世界的流行(パンデミック)をうけ2020年7月27~31日に開催
- ・ 世界各地の専門家(22名)と5つの国際機関(IPCC, CBD事務局等)のリソースパーソンが参加

※科学的査読を経たものではあるが、IPBES公式のレビュープロセスは経ておらず、IPBES総会の承認は得られていない

WS  
議  
題

パンデミックは**どのようにして生じるのか**（とくに自然界の微生物多様性との関連）  
 パンデミックにおける**土地利用変化や気候変動の関与**  
 パンデミックにおける**野生動物取引の関与**  
 パンデミックをより良く**制御するために自然界から学ぶこと**  
 パンデミックの**“One health（ワンヘルス）”**アプローチに基づく**予防**



報告書(96頁, 英語)

報  
告  
書  
内  
容  
（  
概  
要  
）

## 現状（パンデミックの発生・影響）

- ・ **新興感染症の70%**と**ほぼ全ての既知のパンデミックは動物由来感染症**である **年間1兆ドル以上の経済的損害**をもたらさうる
- ・ **推定170万のウイルスが哺乳類と鳥類の宿主に存在し、このうち最大83万（48.6%）が人間に感染**しうる
- ・ **パンデミックにつながりうる感染症の出現は、完全に人間の活動が原因**である
- ・ **土地利用の変化**（森林伐採、主に野生生物の生息地での人間の定住、作物/家畜生産の増加、都市化など）は**パンデミックの推進要素**であり、1960年以降に報告された**新興感染症の30%以上を引き起こした**
- ・ **生息地の破壊や生物多様性の高い生息地への人や家畜の侵入は、病原体の波及・伝染速度を高める新たな経路**を提供
- ・ **保護地域の保全や生物多様性の高い地域での開発を減らすことで、新しい病原体の波及を防ぐことができる**
- ・ **気候変動は、将来のパンデミックリスクの実質的な原因**になりうる
- ・ 野生の陸生脊椎動物全種の**約24%が世界的に取引**されている **感染症監視の義務/規制は、施行や適用に一貫性がない**

## 提言（パンデミック制御/予防のための政策オプションーパンデミック時代からの脱出に向けた**社会変革**のために）

- ・ パンデミックを防止するための**ハイレベルな政府間協議会**の立ち上げ
- ・ **土地利用変化の関与を減らすための政策**（例：大規模開発等における「新興感染症リスク健康影響評価」の開発）
- ・ **野生生物取引に関連する政策**（例：新たな政府間保健貿易パートナーシップの構築 法執行機関の協力強化）
- ・ **知識ギャップを埋める**（例：**ワンヘルス科学研究支援** 主要なリスク行動 先住民の関与と知識 未知の微生物の多様性）
- ・ パンデミックの起源に係る社会のあらゆる部門を対象とした**教育とコミュニケーション**
- ・ **パンデミックリスクの高い消費パターンの特定**、ランク/ラベル付けによる代替品へのインセンティブ提供
- ・ 責任ある食肉消費を含む、より健康的で**持続可能な多様な食生活への移行促進**
- ・ 農業の持続可能性と食の安全性を高め、**野生動物の消費を減らすための持続可能な仕組み**の推進 など